

医業実績への影響

経営企画局 事務部 医療情報戦略課 医療戦略係

センターでは2020年2月よりコロナ感染専用病棟にて発熱患者の収容を開始した。新型コロナウイルス感染症流行により病院経営に与える影響を流行前の2018年度より過去5年遡り患者

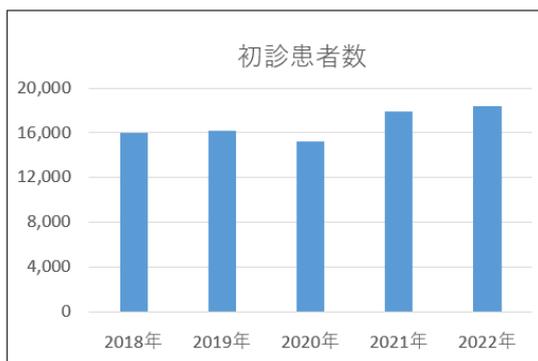
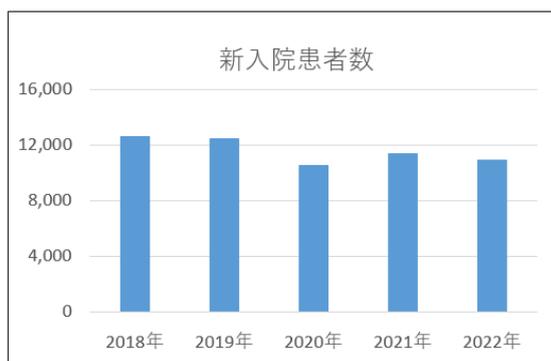
数、医業収益、診療単価、紹介、逆紹介率について分析を行った。

【患者数について】

流行の兆しがみられた2020年度は緊急事態宣言もあり新入院患者数、初診患者数が減少したが新型コロナウイ

ルス感染症患者を積極的に受入れた事で、新入院患者数は2020年度と比較して段階的に回復傾向がみられ、初

診患者数は増加傾向となった。



【医業収入について】

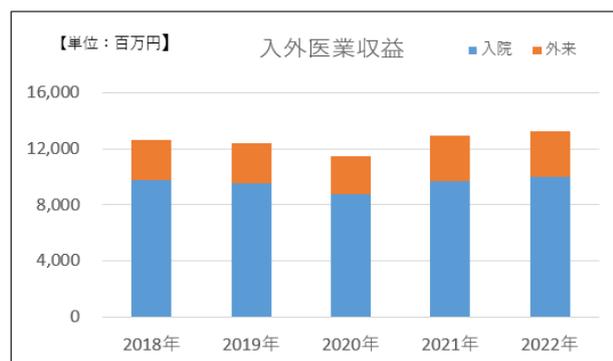
2020年度において入外収益は2018、2019年度と比較して悪化したものの、2021年6月、新たな施設基準（ハイケアユニット入院医療管理料）を取得した。

コロナ感染専用病棟15床で運用開始

し、感染状況を踏まえて最大で58床病棟拡大した。

外来診療では院内に感染を持ち込まないために、電話再診による院外処方せん発行、連携医療機関を支援するためにPCR検査を施行した。また東京都、

各区市町村保健所より紹介された新型コロナウイルス患者を積極的に受入れ治療を行った。その事で2021年度以降は2020年以前より収益増となった

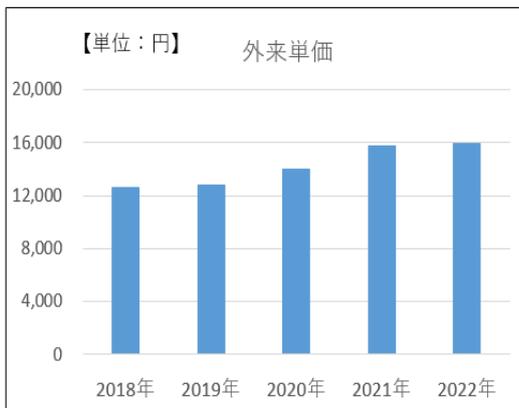
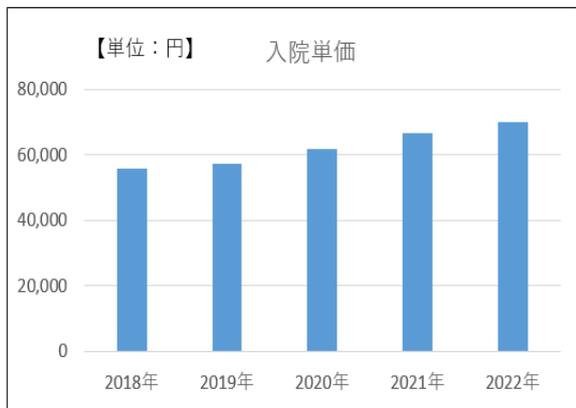


【診療単価について】

新型コロナウイルス感染症を発症した患者で癌・心不全・呼吸不全を併せ持った高齢者の割合が多く、専用病床で集中治療を行った。また近隣の第2種感

染症指定病院である豊島病院からは体外式膜型人工肺(ECMO)治療を必要とするコロナ末期呼吸不全症例を受け入れICUにて集中治療を行う事など

により、入院診療単価、外来診療単価においては大幅に増加傾向となった



【紹介・逆紹介について】

新型コロナウイルス感染症流行時に入院・外来患者数の減少傾向がみられたが、地域医療機関から発熱患者の紹介受入れ、入院加療軽快した新型コロナウイルス感染症患者の他医療機関へ

の逆紹介を積極的に行った為、紹介・逆紹介患者数は増加傾向であった。

今後も地域医療機関との連携を進め病床機能を明文化し、お互いの医療機関で患者を地域でささえていくように

引き続き検討していく。

病院が一丸となって新型コロナウイルス感染症患者を受入れ取り組んだことなどから、収益について2022年度は過去5カ年で最高収益となった。

